

## リスクアセスメント ／性加害者治療プログラム

聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室  
安藤久美子

1

## リスクアセスメントって？

難しそう・・・

何をしたいのかわからない

そもそも本当に当たるのか



2

## 適切なアセスメントを行うには・・・

① その人のことをよく知る

3

専門家による  
丁寧な「診立て」のための道具

リスク・アセスメント・ツール



過去の「臨床研究や研究論文」や  
専門家の実践から、理論的に導き出され、  
系統だった視点によって、丁寧に情報  
(リスク要因になりうる要因)を集める

構造化された専門的判断  
(SPJ: structured professional judgement)

4

### 構造化された専門的判断(SPJ)の特徴

- 過去の「臨床研究や研究論文」や専門家の実践から導き出された変数からなる。
- すべての対象者が、一連の要因について検討されるが、そのなかにはリスクの高いものも低いものもあり、評価者のそれまでの感覚(評価)を覆すかもしれない。

### 構造化された専門的判断(SPJ)の手順

- 何のリスクについて評価するのかを決める。
- 個々のケースごとにリスク要因を特定する。
- リスク要因がどのように影響し、いまの問題のリスクが高まるのかをシナリオとして整理する。
- 変化可能な動的なリスクファクターや、重要なシナリオをもとに治療やマネージメントプランを立案していく。

## 1. リスク要因の収集と存在の確認

- リスク要因を多面的に収集する
- リスク要因の“存在”の評価をする
  - 2 Y 確実にある
  - 1 P おそらくある、ありそうだが不確実
  - 0 N ない
  - 情報が無い/判断不能omit

## 2. ターゲットとするリスクの特定

- 誰を
  - いつ
  - 時期
  - 切迫度
- 何を
  - 暴力/性暴力
  - 自傷、自殺
  - 失踪
  - 被害 など

## 3. リスク要因の影響・重要性

- リスク要因がどのような影響を及ぼすのか。
- 将来のリスクマネジメント戦略に関する重要性をみる
  - 過去の暴力に関係していたか?
  - 将来の暴力に影響しそうか?
  - 非暴力的な問題解決を阻害しそうか?
  - そのリスクを下げるにあたって重要、決定的か?

## 4. リスク・マネジメントプラン

### ※ RNR原則

	内容	臨床では・・・
Risk リスク原則	提供する治療・支援(サービス)を本人のリスクの程度に合わせる	扱いやすいケースに手をかけ、難しいケースは避けやすい/人任せ
Need ニーズ原則	犯罪の原因となるような要因(ニーズ)を明らかにし、そのニーズに治療の焦点をあてる	全般的なプログラム、既存のプログラム、治療者の得意なプログラム、直近の問題行動への介入に目を向けがち
Responsivity レスポンスヴィティ原則	本人にあった方法を用い、本人の動機、能力、ストレスに合わせることで、介入や治療の効果(獲得力)をできるだけ大きくする	なかテラーメイドの支援ができない

## リスク・マネジメント

リスク・アセスメントに基づいた  
具体的な想定・シナリオにそって、  
有効な戦略を立てる

## リスク・マネジメントのポイント

① **ターゲットにするリスクを特定**

いつ、誰に、何が、どのように起こるリスクなのか

② **RNR原則**  
にそった計画と実施

Risk-Need-Responsivity

③ **再アセスメント**  
を行う

当初の計画をたてたときは状態が変わっている

## 適切なアセスメントには・・・

- ① その人のことをよく知る
- ② 障害特性を理解する

- ・知的レベルはどうか.
- ・発達障害のどんな特性があるか.
- ・二次障害の有無 など

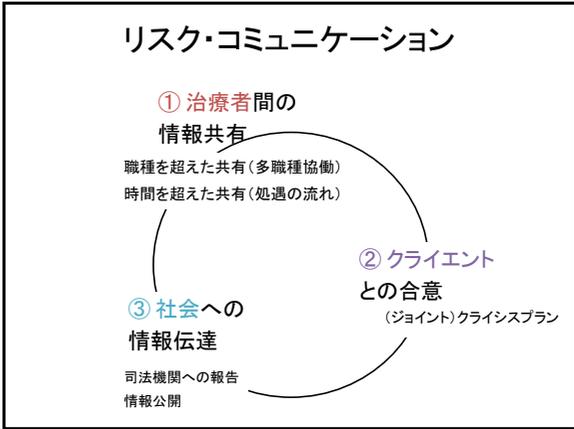
## 障害特性がどのように 司法に関わってくるのかを考える・・・

**@PIP31-ASD version.**  
Assessment Tool for  
Preventive Intervention for  
Problem Behaviors 33items  
-ASD version

## @pip33の項目

<b>反社会性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体的暴力</li> <li>身体的暴力の初回の年齢</li> <li>非身体的攻撃・破壊的行為</li> <li>補導歴/逮捕・勾留歴</li> <li>施設収容歴</li> <li>違法薬物の使用</li> </ul>	<b>精神疾患</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自前関連行動</li> <li>精神病症状</li> <li>併存する主要な精神疾患</li> <li>障害特性の理解(受容)度</li> <li>治療へのアドヒアランス、コンプライアンス/ 復帰を求める姿勢</li> </ul>
<b>家庭</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>不適切な養育</li> <li>未成年期の養育者の変更</li> <li>両親・養育者の犯罪歴や反社会的傾向</li> </ul>	<b>個人特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>権威への反抗的態度/反社会的態度</li> <li>かんしゃく・怒りのコントロール不全</li> <li>共感性の低さ</li> </ul>
<b>学校</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校・職場等での不適応</li> <li>学業成績不備</li> <li>いじめの被害</li> </ul>	<b>行動特性 ADHD</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>多動性/衝動性の高さ</li> <li>不注意</li> </ul>
<b>環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害経歴</li> <li>過去の監督・保護/介入の失敗</li> <li>対人・社会的サポート</li> <li>経済状況</li> </ul>	<b>行動特性 ADD</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ルール/規則の理解不足や誤解しやすさ</li> <li>思考の柔軟性の欠如</li> <li>日常生活上のこだわり/儀式的行動</li> <li>相互的対人交流の困難さ</li> <li>感覚過敏</li> <li>感覚刺激による不安定さ/パニック発作頻度の高さ</li> </ul>

「診立て」の共有  
 =リスク・コミュニケーション



リスク・アセスメント  
 リスク・マネジメント  
 リスク・コミュニケーション

広範に集められ整理された情報に基づく根拠のある見立てをし、それをもとにケースごとにリスクの低減に役立つ実現可能な計画をたて、それを本人を含むチームで共有し、実践すること

地域で実施可能な知的障害向けの  
 性犯罪再犯防止プログラム  
 (仮称: 聖マリアンナ医大式 SOTRAM)  
 の開発と普及

22

